

Bridges

【海外研修ニュージーランド】

今年から当校の海外研修に主に中学生を対象としたニュージーランド研修（今年は7月20日から8月1日まで）が加わります。当校の姉妹校であるワイヒカレッジを拠点とし、ホームステイをしながら英語力の向上と異文化体験をすることができます。人数制限があり、申込人数によっては選考が行われる場合もありますが、姉妹校への留学ですので学習プログラムやホストファミリーの受け入れも含めて様々な面で手厚い研修となっています。

【海外研修アメリカ】

今年で35回目を迎える海外研修はリニューアルして3年目になりました。高校生を対象とし、「グローバルな貢献を目指して」をテーマにアメリカ東海岸を巡ります（今年は7月23日から8月9日まで）。ランカスターにて当校の起源をたどり、教会キャンプに参加します。教会キャンプでは現地の大学生が主体となって活気溢れる企画を行っています。もう一度参加したくなる人が出てくるほどです。ニューヨークではESDの一環として国連を訪問し、その後ボストンへ移動します。ボストンではハーバード大学の学生から主にリーダーシップに関する講義を聴きます。彼らのエネルギーや人生観に触れるだけでもこれからの進路選択の一助になるのではないのでしょうか。この研修にはクロームブックを持参しますが、ボストンプログラムの最後に一人ずつ英語でプレゼンテーションを行います。参加者の中でも英語力は様々ですが、毎年全員が自分の最善を尽くしてプレゼンテーションに臨んでいます。

【海外研修の思い出】

現在の高校生徒会長及び副会長は昨年アメリカ研修参加者でした。海外研修で学んだリーダーシップを体現してくれたと嬉しく思います。今回は生徒会長の齋藤君に思い出を書いていただきました。

私は昨年7月21日から8月7日までの18日間、海外研修に参加しました。私は海外へ行くのが初めてだったので、見るもの触れるものすべてが新鮮で刺激になりました。現地での様々な活動の中で印象に残っているのは、ホームステイです。ホームステイでは、はじめは知らない土地で言葉も自由に伝わらないホストファミリーとの生活が不安でした。しかし、ホストファミリーがとても優しく、気を遣ってゆっくり話してくれたり、色んな場所に連れて行ってくれたりしたので、不安はいつの間にか消えていきました。

また、実際に現地の人と生活することで直に文化に触れることができたのも貴重な体験でした。アメリカにはキリスト教文化が根づいており、食事の際は必ずお祈りをしてから頂きます。そして日曜日には教会へ行くのですが、日本の教会とは全く違い、賛美歌をバンドの演奏で歌ったりドラマを見たりしたので驚きました。

わたしは、海外研修に行く前と行った後で、海外への意識が変わりました。以前は、海外は自分とは縁のない、遠くの存在だと思っていましたが、行った後には海外への興味がわき、現地でアメリカ人と仲良くなったことで外国人の方と話ができるようになりたいと思い、英語も積極的に勉強するようになりました。海外へ行き自分の価値観が変わったので、私は研修に行ってよかったと思っています。海外研修に行かせてくれた親や引率してくれた先生、そのほかのいろいろな人に感謝しています。

【姉妹校生徒受け入れ】

姉妹校のワイヒカレッジは我々の海外研修を受け入れてくれるだけではなく、生徒を日本に研修の一環で送ってくださることもなっています。今年は9月29日から10月10日までとなっております。学校の授業にも加わるようになります。「海外研修に行っても大丈夫だろうか」と不安を抱えているご家庭は来年度に向けて留学生の受け入れをご検討ください。彼らと少しでもコミュニケーションを取ることができれば、海外研修に行っても充実した日々を送ることができるでしょう。

【オーストラリア 高校留学体験記】

昨年度、オーストラリアの高校に3ヶ月留学をしてきた4年K組の菅原君に感想を書いていただきました。このようなターム留学に参加しやすいよう学校側でも制度を整えております。積極的に考えてみてください。

僕はオーストラリアのサウスオーストラリア州のModbury High Schoolという学校に約三か月留学をしました。元々留学に興味があったのですが、以前にホストファミリーをした時、留学生の話聞き外国で勉強してみたいという気持ちが強くなりました。また、自分の語学力向上と社会で役立つようなコミュニケーション能力を身につけたいと思っていたので留学をする事決めました。

現地に行く前は、自分のリスニング力と語彙力で挨拶や日常の会話の一部くらいは理解できると思っていたのですが、実際現地に行ったら、自分の予想していたあいさつや質問とはほとんど違う聞き方と発音だったので最初の一週間は聞き取ることも答えることも困難でした。例えば挨拶と言ったら"How are you"や"Good to see you"程度だと思っていたのですが、現地では"How are you going"や"How is it going"などもあり、あまり聞き慣れない文と聞き慣れない発音で質問されとても戸惑いました。また質問の文が人それぞれ違っていたため、臨機応変に対応するのが大変でした。

現地の学校生活では最初に自分の希望する教科を選択してその教科だけを学習するのですが、日本と違ったことは、ホームグループもありホームグループティーチャーもいるのですが、授業のときは生徒が選択した授業のクラスに行くのでクラスメイトが同じクラスで勉強をするという機会がほとんどなく、一回の授業にだいたい4~5人しか同じクラスの生徒がいませんでした。また、すべての授業や宿題、連絡事項はパソコンで行っていました。

さらに留学生の数も多く、僕を含めて12人留学生がいて、そのうちの9人が日本人、2人が中国人、1人がベトナム人と留学生の受け入れ体制が整っていました。学校の生徒は5割が現地の学生、4割がインド系、1割がアジア系と、様々な国の人たちとコミュニケーションがとれ、友達も作れたので良かったです。

学校が終わってからは、ほぼ毎日出る宿題を2時間くらいで終わらせた後、現地の友達と電話やゲームをして過ごしました。休日には友達とアデレードという都心部に行ったり、ホストファミリーとビーチやサイクリングをしたりしました。僕のホストファミリーはとても親切で、勉強も教えてもらいました。ホストファミリーのおかげでとても充実した生活を送れました。

最初は「3か月という長い間見知らぬ地と環境の中で生活し勉強できるのか？」と思っていたのですが、実際に生活してみるとあっという間に日が経ってしまい、もっとオーストラリアにいたかったと思いました。

今回の経験から僕は将来の進路を外国に広げてもいいかなと思えるようになりました。そのために今後しっかりと勉強をしたいと思います。

最後に留学の支援をしてくださった方々、ありがとうございました。